

(様式第9)

大市大病 号
平成21年10月 / 日

厚生労働大臣

殿

公立大学法人大阪市
理事長 金児 暁

大阪市立大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成20年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	181.92人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	405人	106.7人	510.2人	看護業務補助	40人	診療エックス線技師	人
歯科医師	人	人	人	理学療法士	7人	臨床検査技師	54人
薬剤師	37人	11人	48.0人	作業療法士	3人	衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	2人	その他	人
助産師	27人	0.5人	27.5人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	733人	63.1人	839.7人	臨床工学技士	7人	医療社会事業従事者	人
准看護師	2人	7.3人	9.3人	栄養士	0人	その他の技術員	3人
歯科衛生士	人	人	人	歯科技工士	人	事務職員	41人
管理栄養士	9人	0人	9人	診療放射線技師	46人	その他の職員	47人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	720.6人	一人	720.6人
1日当たり平均外来患者数	2071.5人	一人	2071.5人
1日当たり平均調剤数		1258.0	剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション(前十字靭帯損傷又は後十字靭帯損傷に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
凍結保存同種組織を用いた外科治療(心臓弁又は血管を用いるものであって、組織の凍結保存及び外科治療を同一施設内で行うものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
胎児心超音波検査(産科スクリーニング胎児超音波検査において心疾患が強く疑われる症例に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
インプラント義歯(顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
顎顔面補綴(腫瘍手術、外傷及び炎症その他の原因により顔面領域に生じた広範囲の実質欠損に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
顎関節症の補綴学的治療(顎関節症(顎関節内障、下顎頭の著しい変形及び顎関節円板の断裂を除く。)に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法(神経の障害による運動麻痺又は骨・関節手術後の筋萎縮に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
光学印象採得による陶材歯冠修復法(歯冠部齧蝕の修復に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
経皮的レーザー椎間板減圧術(内視鏡下によるものを含み、椎間板ヘルニアに係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定(白血病、悪性リンパ腫又は多発性骨髄腫その他の造血器悪性腫瘍に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法(手術が予定されている者で、悪性高熱症が強く疑われる者に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
CTガイド下気管支鏡検査(肺腫瘍に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断(アンチトロンビン欠乏症、第Ⅶ因子欠乏症、先天性アンチトロンビンⅢ欠乏症、先天性ヘパリンコファクターⅡ欠乏症又は先天性プラスミノゲン欠乏症に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
三次元形状解析による顔面の形態的診断(頭蓋、顔面又は頸部の変形性疾患に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
HDRA法又はCD—DST法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん(根治度Cの胃がんを除く。)、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
子宮頸部前がん病変のHPV—DNA診断(子宮頸部軽度異形成に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
腹腔鏡下肝部分切除術(肝外側区域切除術を含み、肝腫瘍に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	9人
悪性腫瘍に対する陽子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
成長障害のDNA診断(特発性低身長症に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	0人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術(内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	4人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術(主に乳房温存手術が可能なステージⅠ又はⅡの乳がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
声帯内自家側頭筋膜移植術(一側性反回神経麻痺又は声帯溝症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
骨髄細胞移植による血管新生療法(閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の治療法に抵抗性のもので、フォンタン分類Ⅲ度又は同分類Ⅳ度のものに限る。))に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
ミトコンドリア病のDNA診断(高乳酸血症その他のミトコンドリア機能低下が疑われる疾患に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
鏡視下肩峰下腔徐圧術(透析アミロイド肩関節症又は腱板断裂、五十肩若しくは関節リウマチその他の原因による肩インピンジメント症候群に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
神経変性疾患のDNA診断(ハンチントン舞踏病、脊髄小脳変性症、球脊髄性筋萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺又はマックリード症候群その他の神経変性疾患に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術(再発翼状片、角膜上皮欠損(角膜移植によるものを含む。)、角膜穿孔、角膜化学腐食、角膜癒着(スティーブンス・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡、熱・化学外傷癒着その他の重症の癒着性角結膜疾患を含む。)、結膜上皮内過形成又は結膜腫瘍その他の眼表面疾患に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
重粒子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術(原発性脊椎腫瘍又は転移性脊椎腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
31燐—磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断(糖尿病性足病変危険群と考えられる糖尿病患者に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
神経芽腫のRNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療(腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊椎管狭窄症又は腰椎手術の実施後の腰下肢痛(保存治療に抵抗性のものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断(BCG副反応症例又は非定形抗酸菌感染で重症、反復若しくは難治である場合に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体室素処理骨移植	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術(インスリーノーマ、脾動脈瘤、粘液性嚢胞腫瘍、膵管内腫瘍その他の膵良性腫瘍に係る膵体尾部切除又は核出術に限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断(マントル細胞リンパ腫の補助診断として用いるものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断(急性期又は慢性期のQ熱に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
エキシマレーザー冠動脈形成術(経皮的冠動脈形成術(エキシマレーザー冠動脈形成術を除く。))による治療が困難なもの、慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるものに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
活性化Tリンパ球移入療法(原発性若しくは続発性の免疫不全症の難治性日和見感染症又は慢性活動性EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術(膀胱尿管逆流症(国際分類グレードVの高度逆流症を除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術(泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移例又は画像上リンパ節転移が疑われるものに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植 (HLA適合ドナーがないために造血幹細胞移植が受けられない小児のがん、難治性造血障害又は免疫不全症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術 (頸椎椎間板ヘルニア (画像診断上椎間板繊維輪の破綻していないヘルニアであって、神経根症が明らかであり保存治療に抵抗性のあるもの (後縦靭帯骨化症、脊椎管狭窄状態又は脊椎症状のあるものを除く。)) に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
ケラチン病の遺伝子診断 (水疱型魚鱗癬様紅皮症又は単純型表皮水疱症その他の遺伝子異常に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
末梢血単核球移植による血管再生治療 (慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病 (従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの) に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。)) に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
末梢血単核球移植による血管再生治療 (慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病 (従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの) に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。)) に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術 (双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例 (妊娠十六週から二十六週に限る。)) に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法 (肺がん又は気管支前がん病変に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断 (ウィルソン病、メンケス病又はオクシピタルホーン症候群に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
超音波骨折治療法 (四肢の骨折 (治療のために手術中に行われるものを除く。)) のうち、観血的手術を実施したもの (開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。)) に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法 (ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存 (骨又は靭帯の再建術であって、先天性疾患、外傷性 (欠損性又は感染性偽関節に係るもの) に限り、骨腫瘍切除後、関節固定術時若しくは人工関節置換術時 (初回又は再置換術時) に限り) の広範囲骨欠損、脊椎固定術時の骨融合促進又は靭帯断裂による関節不安定性に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術 (難治性根尖性歯周炎であって、通常の根管治療では効果が認められないもの) に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価 (骨粗鬆症、骨変形若しくは骨腫瘍又は骨腫瘍掻爬術後若しくは骨髄炎掻爬術後の症状に係るもの) に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
膀胱水圧拡張術 (間質性膀胱炎に係るもの) に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	2人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法 (歯周炎による重度垂直性骨欠損に係るもの) に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術 (人工股関節のたるみに係るもの) に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡下直腸固定術 (直腸脱に係るもの) に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
骨移動術による関節温存型再建 (骨軟部腫瘍切除後の骨欠損に係るもの) に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション (原発性肝がん、肝内胆管がん、転移性肝がん又は生体肝移植ドナーに係るもの) に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法 (腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍 (食道がん、胃がん又は大腸がん)、進行再発乳がん又は原発性若しくは転移性肺がん) に係るもの) に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断(EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術(尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、後腹膜リンパ節腫瘍(精巣がんから転移したのものに限る。))又は骨盤リンパ節腫瘍(泌尿器がんから転移したのものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
先天性難聴の遺伝子診断(遺伝性による先天性難聴が疑われるものに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断(フェニルケトン尿症、高フェニルアラニン血症又はヒオプテリン反応性フェニルアラニン水酸化酵素欠損症に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	2人
培養細胞による先天性代謝異常診断(先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))に罹患する可能性の高い胎児もしくは新生児又は先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))が疑われる小児に係るものであって、酵素補充療法による治療が出来ないものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術(手術進行期分類 I b期までの子宮体がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
RET遺伝子診断(甲状腺髄様癌に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
角膜ジストロフィの遺伝子解析(角膜ジストロフィと診断された症例に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
強度変調放射線治療(限局性の固形悪性腫瘍(頭頸部腫瘍、前立腺腫瘍又は中枢神経腫瘍であって、原発性のものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
マイクロ波子宮内膜アブレーション(機能性及び器質性過多月経(ただし、妊孕性の温存が必要な場合又は子宮内膜がん、異型内膜増殖症その他の悪性疾患又はその疑いがある場合を除く。))であって、子宮壁厚十ミリメートル以上の症例に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	5人
抗EGFR抗体医薬投与前におけるKRAS遺伝子変異検査(EGFR陽性の治癒切除不能な進行又は再発の結腸又は直腸がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助(ICD-10(統計法第二十八条及び附則第三条の規定に基づき、疾病、傷害及び死因に関する分類の名称及び分類表を定める件(平成二十一年総務省告示第百七十六号)の「(1) 疾病、傷害及び死因の統計分類基本分類表」に規定する分類をいう。))においてF2(統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害)に分類される疾病及びF3(気分(感情)障害)に分類される疾病のいずれかの疾病の患者であることが強く疑われるうつ症状の者(器質的疾患に起因するうつ症状の者を除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術(下肢慢性静脈不全症(下腿の広範囲の皮膚に色素沈着、硬化若しくは萎縮が起こり、又は潰瘍を有するとともに、超音波検査により穿通枝の血液が逆流していることが確認され、かつ、従来の外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴(小白歯の重度の齲蝕に対して全部被覆冠による歯冠補綴が必要な場合に限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(早期大腸がん(EMR(内視鏡的粘膜切除術をいう。以下同じ。))では一括切除が困難な二センチメートル以上の病変であって、拡大内視鏡診断又は超音波内視鏡診断による十分な術前評価の結果、根治性が期待できるものに限る。))又は腺腫(EMRを実施した際の病変の挙上不良なもの又はEMRを実施した後に遺残又は再発したものであってEMRでは切除が困難な一センチメートル以上の病変のものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
実物大臓器立体モデルによる手術支援(骨盤、四肢骨又は関節に著しい変形又は欠損を伴う疾患又は外傷に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査(閉塞性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる症状(習慣性がある激しいいびき、日中の傾眠等をいう。))及び所見(肥満、薬物療法に対して抵抗性を有する高血圧等をいう。))が認められる者又は中枢性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる慢性心不全の者に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術(頸部良性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術(転移性脊椎骨腫瘍、骨粗鬆症による脊椎骨折又は難治性疼痛を伴う椎体圧迫骨折若しくは白蓋骨折に係るものに限る。)	<input type="radio"/> 有・無	1人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	<input type="radio"/> 有・無	67人
カフェイン併用化学療法(骨肉腫、悪性線維性組織球腫、滑膜肉腫又は明細胞肉腫その他の骨軟部悪性腫瘍に係るものに限る。)	<input type="radio"/> 有・無	119人
胎児尿路・羊水腔シャント術(ブルー・ベリー症候群その他の胎児閉塞性尿路疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療(ジストニア、痙性麻痺その他の局所の筋過緊張を呈する病態に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。)に係るものに限る。)	<input type="radio"/> 有・無	6人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(腎悪性腫瘍(従来外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。)に係るものに限る。)	<input type="radio"/> 有・無	0人
内視鏡下甲状腺がん手術(手術の実施後、予後の良い甲状腺乳頭がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法(転移性骨腫瘍で既存の治療法により制御不良なもの又は類骨腫(診断の確実なものに限る。)に係るものに限る。)	<input type="radio"/> 有・無	0人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法(一次性下肢静脈瘤に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術(特発性又は既知の胎児先天性感染による胸水を主たる徴候とする非免疫性胎児水腫症(NIH)例であって、胸腔穿刺後一週間以降に胸水の再貯留が認められるもの(妊娠二十週から三十四週未満に限る。)に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input type="radio"/> 無	0人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法(二次性副甲状腺機能亢進症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡補助下肝切除術(部分切除及び外側区域切除を除く。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援(前立腺がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
内視鏡下手術用ロボットを用いた冠動脈バイパス手術(虚血性心疾患に係るものであって、一箇所を吻合するものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	0人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱い患者数	疾 患 名	取扱い患者数
・ベーチェット病	86人	・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	18人
・多発性硬化症	40人	・ウェゲナー肉芽腫症	9人
・重症筋無力症	46人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	40人
・全身性エリテマトーデス	272人	・多系統萎縮症	15人
・スモン	1人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人
・再生不良性貧血	56人	・膿疱性乾癬	11人
・サルコイドーシス	67人	・広範脊柱管狭窄症	6人
・筋萎縮性側索硬化症	19人	・原発性胆汁性肝硬変	100人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	154人	・重症急性膵炎	3人
・特発性血小板減少性紫斑病	95人	・特発性大腿骨頭壊死症	69人
・結節性動脈周囲炎	33人	・混合性結合組織病	35人
・潰瘍性大腸炎	509人	・原発性免疫不全症候群	3人
・大動脈炎症候群	18人	・特発性間質性肺炎	9人
・ビュルガー病	21人	・網膜色素変性症	23人
・天疱瘡	17人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	56人	・原発性肺高血圧症	2人
・クローン病	292人	・神経線維腫症	35人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	14人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・パーキンソン病関連疾患	120人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	2人
・アミロイドーシス	7人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	29人
・後縦靭帯骨化症	71人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・ハンチントン病	1人		

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に2回程度		
剖 検 の 状 況	剖検症例数	44例	剖検率 20.8 %

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
心不全に対し β 遮断薬療法を安全かつ有効に導入するための統合的ゲノム薬理学研究(H18-ファーマコー一般-001)	葎山 稔	循環器病態内科学	5,000,000	補 委 厚生労働 科学研究費補助金 創薬基盤推進研究 事業
血液酸化ストレスマーカーと画像診断による心筋梗塞・脳梗塞発症予知に関する研究	江原 省一	循環器病態内科学	1,800,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
慢性心不全におけるthrombospondinの β ・断薬反応性への関与と機序	竹本 恭彦	循環器病態内科学	1,500,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
アンジオポエチンを介する血管新生の分子機構の解明とその喘息治療への応用	金澤 博	内科学第1(呼吸器)	1,300,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
非小細胞肺癌患者における血中遊離DNAを用いた治療効果予測の検討	木村 達郎	内科学第2(呼吸器)	1,300,000	補 委 文部科学省 若手研究(B)
副甲状腺細胞内における副甲状腺ホルモン断片化調節機構の研究	稲葉雅章	生活習慣病・糖尿病センター	1,100,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
終末糖化産物受容体及びその可溶性受容体を標的とした肥満・動脈硬化の制御	小山英則	生活習慣病・糖尿病センター	2,200,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
メタボリックシンドロームにおける頸動脈硬化症の2元的特性に関する臨床的意義の確立	絵本正憲	生活習慣病・糖尿病センター	1,100,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
副甲状腺の腫瘍化機構とカルシウム感受容体の意義	今西康雄	生活習慣病・糖尿病センター	1,700,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
ナノスキャホールドによる高有効性・低侵襲性ハイブリッド型血管新生療法の開発	福本真也	生活習慣病・糖尿病センター	1,700,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
難治性足潰瘍モデル動物の作成とその治療促進機序の解明	田中新二	生活習慣病・糖尿病センター	1,500,000	補 委 財団法人 大坂難病研究財団
炎症性腸炎疾患における腸管上皮細胞間接着蛋白の研究	押谷 伸英	消化器内科	1,300,000円	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
アラキドン酸代謝からみたバレット食道・腺癌発生過程の分子機構の解明	藤原 靖弘	消化器内科	500,000円	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
消化管苦味受容体からの求心性シグナルの脳内分子イメージングと消化管生理機能解析	富永 和作	消化器内科	1,100,000円	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
プロスタグランジンの輸送・代謝機構からの胃癌の病態生理の解明	渡邊 俊雄	消化器内科	700,000円	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
上皮-間充織形質転換の観点から見た消化器疾患におけるプロスタグランジンの意義	谷川 徹也	消化器内科	600,000円	補 委 文部科学省 若手研究(B)

シングルバルーン小腸内視鏡外来検査によるInfliximabのクローン病小腸病変に対する内視鏡的有効性および予後に関する検討	渡辺 憲治	消化器内科	500,000円	補 委	財団法人 内視鏡医学研究振興 財団 平成20年度 研究助成(B)
インターフェロンの抗肝線維化分子機構の解明とその応用	河田則文	肝胆膵病態内科/ 輸血部兼務	22,425,000	補 委	厚生労働省 肝炎等克服緊急 対策研究事業
消化管癒着・線維形成過程の分子構築解析・制御法開発と腸管星細胞探索の試み	河田則文	肝胆膵病態内科/ 輸血部兼務	400,000	補 委	文部科学省 基盤研究(B)
ATL発症高危険群の長期追跡と発病予防の検討	高 起良 (分担研究者)	血液腫瘍制御学	1,000,000	補 委	文部科学省 特定領域研究
造血幹細胞移植治療の合併症の評価と克服に関する研究	日野雅之	血液腫瘍制御学	1,560,000	補 委	文部科学省 基盤研究(C)
治療関連合併症を減少させて同種造血幹細胞移植後の生存率の向上を目指す標準的治療法の開発研究	日野雅之 (分担研究者)	血液腫瘍制御学	1,000,000	補 委	厚生労働省 がん臨床研究事業
同種末梢造血幹細胞移植を非血縁者間で行う場合等の医学、医療、社会的基盤に関する研究	日野雅之 (分担研究者)	血液腫瘍制御学	800,000	補 委	厚生労働省 免疫アレルギー疾患等 予防・治療研究事業
軽度認知障害の、推定背景病理に基づく、最適認知症進展予防法の開発	嶋田裕之	老年内科神経内科	800,000	補 委	厚生労働省
認知症の根絶に向けた研究拠点づくりを目指した総合研究	三木隆己	老年内科神経内科	2,500,000	補 委	大阪市立大学
早期認知症患者におけるアミロイドペプト検査の臨床的有用性の検討	三木 隆己	老年科・神経内科	2,800,000	補 委	文部科学省 基盤研究(B)
現行マスキングの問題解決に関する研究	新宅 治夫	小児科・新生児科	200,000	補 委	厚生労働省
マイクロペプトを用いた低酸素性虚血性脳症の病態解明と治療法に関する研究	新宅 治夫	小児科・新生児科	1,900,000	補 委	文部科学省 基盤研究(C)
先天代謝異常症の診断ネットワークを介した長期予後追跡システムの構築	新宅 治夫	小児科・新生児科	1,000,000	補 委	成育医療 (国立成育センター)
乳幼児のぜん息ハイリスク群を対象とした保健指導の実践および評価手法に関する調査研究	新宅 治夫	小児科・新生児科	10,000,000	補 委	独立行政法人・環境再生 保全機構
タンデムマスによるマスキングの効果に関する研究	岡野 善行	小児科・新生児科	100,000	補 委	厚生労働省
アジアにおけるシトリン欠損症の診断と治療	岡野 善行	小児科・新生児科	500,000	補 委	日本学術振興会・アジア・ アフリカ学術基盤形成事 業
ヒトフェニルアラニン水酸化酵素のin vivoでの発現と制御機構の解明	岡野 善行	小児科・新生児科	600,000	補 委	森永奉仕会
4発達期に発症する外因性脳障害の治療・診断予防のための実証的研究とガイドラインの作成。新生児けいれんの診療ガイドライン作成	山野 恒一	小児科・新生児科	1,200,000	補 委	厚労省精神・神経疾患 研究委託持病(18指- 4)

ライソゾーム病(ファブリ病含む)に関する調査研究(衛藤班)	田中 あけみ	小児科・新生児科	1,500,000	補委	厚生労働省 難治性疾患克服研究事業
新しい新生児マススクリーニング体制の検討(山口班)	田中 あけみ	小児科・新生児科	150,000	補委	厚生労働省 子ども家庭総合研究事業
新規治療法が開発された小児希少難病の疫学調査と長期フォローアップ体制の確立(奥山班)	田中 あけみ	小児科・新生児科	2,000,000	補委	厚生労働省 医療技術実用化 総合研究事業
グルタミート脱水素酵素異常による高アンモニア血症の発症機構の解明と治療法の開発	岡野 善行	小児科・新生児科	1,600,000	補委	文部科学省 基盤研究(C)
遺伝性神経疾患における細胞治療の長期効果に対する免疫関与に関する研究	田中 あけみ	小児科・新生児科	2,000,000	補委	文部科学省 基盤研究(C)
小児医療現場の医療保育・就学前プログラムの開発 ー円滑な社会復帰を目指してー	山口 悦子	小児科・新生児科	100,000	補委	文部科学省 萌芽研究 (分担研究)
摂食障害の疫学、病態と診断、治療法、転帰と予後に関する総合的研究	切池信夫	神経精神医学	140,000	補委	厚生労働省 精神・神経疾患研究委託費(20-2)
職場ストレス、抑うつ度の把握と性格傾向に基づいたストレス対処方法の開発	井上 幸紀	神経精神医学	1,800,000	補委	文部科学省 基盤研究(B)
学童期の高機能広汎性発達障害児における多動性と不注意	宮脇 大	神経精神医学	700,000	補委	文部科学省 若手研究(B)
ラミン制御による発毛機構の解明	鶴田大輔	皮膚科学	1,300,000	補委	大阪市
皮膚バリア機能に対する漢方薬の作用機序解明と評価システムの構築	小林 裕美	皮膚科学	800,000	補委	文部科学省 基盤研究(C)
日本人アトピー性皮膚炎におけるフィラグリン遺伝子異常の解析	深井 和吉	皮膚科学	1,300,000	補委	文部科学省 基盤研究(C)
乾癬候補遺伝子としてのEVER1およびEVER2遺伝子多型解析	大霜 智子	皮膚科学	1,300,000	補委	文部科学省 若手研究(B)
胸部悪性腫瘍のラジオ波焼灼療法に関する研究	松岡利幸	放射線科	800,000	補委	厚生労働省 医療技術実用化 総合研究事業 (分担研究)
ブタ正常肺及び家兎腫瘍肺モデルのラジオ波凝固時における組織内温度分布の測定	松岡利幸	放射線科	1,600,000	補委	文部科学省 基盤研究(C)
実験腫瘍に対するラジオ波凝固療法後の画像診断による早期治療効果判定の検討	大隈 智尚	放射線科	1,200,000	補委	文部科学省 若手研究(B)
ヒト脳でのフェリチン・ヘモジデリン分布のMRIにおける標準画像の作成	西口 智一	放射線科	1,500,000	補委	文部科学省 若手研究(B)
門脈血行異常に関する調査研究	塩見 進	核医学	600,000	補委	厚生労働省 難治性疾患克服研究事業
大阪市における地域社会特性および生物学的特性に基づいた肝炎医療対策	塩見 進	核医学	700,000	補委	大阪市都市問題研究

アミロイドイメージングを用いたアルツハイマー病の発症・進展予測法の実用化に関する研究	塩見 進	核医学	1,200,000	補委	厚生労働省 長寿科学総合研究事業
F-18フッ化ナトリウムによる甲状腺癌骨転移検査治療効果判定に関する研究	河邊 譲治	核医学	900,000	補委	文部科学省 基盤研究(B)
特発性門脈圧亢進症の病態解析	川村 悦史	核医学	1,300,000	補委	文部科学省 若手研究(B)
FGF受容体阻害剤およびTGFβ受容体阻害剤を用いた胃癌転移に対する分子標的治療の開発	八代 正和	腫瘍外科(第1外科)	500,000	補委	住友信託銀行公益信託 外科学術研究助成基金
FGF-R2阻害剤およびTGFβ-R阻害剤を用いた胃癌分子標的治療の検討	八代 正和	腫瘍外科(第1外科)	500,000	補委	大阪癌研究会 一般学術研究助成
スキルス胃癌の病態と分子標的治療	平川 弘聖	腫瘍外科(第1外科)	1,500,000	補委	文部科学省 基盤研究(B)
VEGF受容体およびPDGF受容体をターゲットとした大腸癌の分子標的治療	山田 靖哉	腫瘍外科(第1外科)	1,300,000	補委	文部科学省 基盤研究(C)
スキルス胃癌に対する分子標的治療薬の開発および抗癌剤との併用効果の検討	八代 正和	腫瘍外科(第1外科)	1,500,000	補委	文部科学省 基盤研究(C)
分子標的治療薬TGFβ阻害剤の樹状細胞による胃癌ワクチン療法への応用	田中 浩明	消化器外科(第1外科)	1,400,000	補委	文部科学省 若手研究(B)
多面的な分子生物学的解析による非B非C型肝炎細胞癌発癌機構の解明と臨床応用	久保 正二	第2外科	1,100,000	補委	文部科学省 基盤研究(C)
特発性大腿骨頭壊死症の予防と治療の標準化を目的とした総合研究	高岡 邦夫	整形外科	1,400,000	補委	厚生労働省 難治性疾患克服研究事業
骨形成制御の細胞内シグナル伝達系におけるクロストークの解明と骨再生への応用	小池 達也	整形外科	3,600,000	補委	文部科学省 基盤研究(B)
コラーゲン誘発関節炎の発症進展へのレプチン抵抗性の関与	小池 達也	整形外科	1,600,000	補委	文部科学省 萌芽研究
BMPを用いた組織学的半月板再建術の開発	星 学	整形外科	1,600,000	補委	文部科学省 若手研究(B)
骨再生能を制御する分子メカニズムに関する研究	松村 昭	整形外科	1,400,000	補委	文部科学省 若手研究(B)
成長軟骨疾患の病因解明を目指した基礎的アプローチ	今井 祐記	整形外科	1,800,000	補委	文部科学省 若手研究(B)
骨と靭帯結合部(エンテシス)の再生技術確立と臨床応用	鈴木 亨暢	整形外科	1,300,000	補委	文部科学省 若手研究(スタートアップ)
骨形成蛋白と新しい薬物遺伝系を用いた脊椎棘突起間固定術	豊田 宏光	整形外科	1,340,000	補委	文部科学省 若手研究(スタートアップ)
BMPと吸収性生体材料による骨再生	高岡 邦夫	整形外科	5,000,000	補委	財団法人 上原記念生命科学財団
再生・細胞医療の世界標準品質を確立する治療法および培養システムの研究開発	脇谷 滋之	整形外科	13,459,000	補委	独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

コラーゲン誘発関節炎の発症進展へのレプチン抵抗性の関与	小池 達也	リハビリテーション部	1,600,000	補 委	文部科学省 挑戦的萌芽研究
骨形成制御の細胞内シグナル伝達系におけるクロストークの解明と骨再生への応用	小池 達也	リハビリテーション部	4,680,000	補 委	文部科学省 基盤研究(B)
コラーゲン食品の膝関節痛に対する効果の検討	小池 達也	リハビリテーション部	30,000,000	補 委	キューサイ株式会社
ヒッププロテクターの開発に関する研究	小池 達也	リハビリテーション部	600,000	補 委	ユニチャーム
尿路結石症におけるCKDの検討	長沼 俊秀	泌尿器科	100,000	補 委	日本尿路結石症学会 奨励賞
前立腺癌機序における活性酸素の役割と関連遺伝子多型の解析	井口 太郎	泌尿器科	1,000,000	補 委	大阪難病財団
卵巣癌腹膜播種機構の解明	吉田 裕之	女性診療科学	800,000	補 委	文部科学省 若手研究(B)
難治性疼痛治療の新しいアプローチ、ミクログリアP2X4受容体機能と発現の検討	森 隆	麻酔・集中治療医学	700,000	補 委	文部科学省 基盤研究(C)
ニューロパシックペインにおける交感神経・断の分子生物学的意義	西川 精宣	麻酔・集中治療医学	800,000	補 委	文部科学省 基盤研究(C)
麻酔薬の作用発現調節機構-脳内薬物動態と脳波、交感神経受容体との関連	小田 裕	麻酔・集中治療医学	1,500,000	補 委	文部科学省 基盤研究(C)
電気痙攣療法による疼痛緩和メカニズムの解明-神経因性疼痛治療への応用に向けて	長谷 一郎	麻酔・集中治療医学	700,000	補 委	文部科学省 若手研究(B)
帯状疱疹後神経痛に伴う脳内モノアミン動態の解明-難治性疼痛の治療に向けて	舟尾 友晴	麻酔・集中治療医学	900,000	補 委	文部科学省 若手研究(B)
中枢性疼痛の発現機序-脳内交感神経受容体との関連の解明、治療への応用に向けて	高橋 陵太	麻酔・集中治療医学	1,300,000	補 委	文部科学省 若手研究(B)

小計13

計86

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
J Am Soc Echocardiogr. 2009 Mar 21 (2009年3月)	Comparative Diagnostic Accuracy of Multiplane and Multislice Three-Dimensional Dobutamine Stress Echocardiography in the Diagnosis of Coronary Artery Disease.	葭山 稔	循環器内科
Ann Hematol. 2009 Jan 20 (2009年1月)	Cardiac and autonomic nerve function after reduced-intensity stem cell transplantation for hematologic malignancy in patients with pre-transplant cardiac dysfunction.	葭山 稔	循環器内科
J Am Soc Echocardiogr. 2009 Jan;22(1):63-9. (2009年1月)	Automated assessment of left atrial function from time-left atrial volume curves using a novel speckle tracking imaging method.	葭山 稔	循環器内科
Am J Emerg Med. 2008 Nov;26(9):1066.e5-7. (2008年11月)	Multiple cardiac thrombi and thromboembolism in a heparin-induced thrombocytopenia antibody-positive patient with heart failure.	葭山 稔	循環器内科
J Cardiol. 2008 Dec;52(3):276-84. (2008年12月)	Usefulness of three-dimensional automated quantification of left ventricular mass, volume, and function by 64-slice computed tomography.	葭山 稔	循環器内科
Circ J. 2009 Jan;73(1):116-24. (2009年1月)	Quantitative analysis of myocardial contrast enhancement by first-pass 64-multidetector computed tomography in patients with coronary heart disease.	葭山 稔	循環器内科
Circ J. 2009 Jan;73(1):86-91. (2009年1月)	Elevated E/E' predicts prognosis in congestive heart failure patients with preserved systolic function.	葭山 稔	循環器内科
J Am Soc Echocardiogr. 2008 Nov;21(11):1251-6. (2008年11月)	Determination of regurgitant orifice area with the use of a new three-dimensional flow convergence geometric assumption in functional mitral regurgitation.	葭山 稔	循環器内科
Circ J. 2008 Dec;72(12):2021-7. (2008年12月)	Assessment of aortic atheromatous plaque and stiffness by 64-slice computed tomography is useful for identifying patients with coronary artery disease.	葭山 稔	循環器内科
Osaka City Med J. 2008 Jun;54(1):31-9. (2008年6月)	Impact of body mass index and Framingham risk score on coronary artery plaque.	葭山 稔	循環器内科
Osaka City Med J. 2008 Jun;54(1):21-30. (2008年6月)	Long-term cardiovascular outcomes following ischemic heart disease in patients with and without peripheral vascular disease.	葭山 稔	循環器内科
Osaka City Med J. 2008 Jun;54(1):11-9. (2008年6月)	The effects of nifekalant hydrochloride on the QT dispersion after direct-current defibrillation.	葭山 稔	循環器内科
Circ J. 2008 Jun;72(6):1025-9. (2008年6月)	Successful radiofrequency catheter ablation for electrical storm of ventricular fibrillation in a patient with Brugada syndrome.	葭山 稔	循環器内科
J Atheroscler Thromb. 2008 Apr;15(2):75-81. (2008年4月)	Small coronary calcium deposits and elevated plasma levels of oxidized low density lipoprotein are characteristic of acute myocardial infarction.	葭山 稔	循環器内科
Stroke. 2008 May;39(5):1597-9. (2008年5月)	Morphological but not functional changes of the carotid artery are associated with the extent of coronary artery disease in patients with preserved left ventricular function.	葭山 稔	循環器内科
Echocardiography. 2008 May;25(5):482-8. (2008年5月)	Clinical utility of new real time three-dimensional transthoracic echocardiography in assessment of mitral valve prolapse.	葭山 稔	循環器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Am Soc Echocardiogr. 2008 Apr;21(4):331-6. (2008年4月)	Clinical use of Doppler echocardiography and Doppler tissue imaging in the estimation of myocardial ischemia during dobutamine stress	葭山 稔	循環器内科
J Am Soc Echocardiogr. 2008 Apr;21(4):355-60. (2008年4月)	Functional mitral regurgitation predicts prognosis independent of left ventricular systolic and diastolic indices in patients with ischemic heart disease.	葭山 稔	循環器内科
Respirology 13(3):346-352 (2008年5月)	Association of beta2-adrenoreceptor genotypes with bronchodilatory effect of tiotropium in COPD.	平田一人	呼吸器内科
Journal of international medical research 36(3):559-566 (2008年5月)	Correlations of health-related quality of life questionnaire results in asthma and allergic rhinitis: effects of a leukotriene receptor antagonist.	平田一人	呼吸器内科
Medical science monitor 14(7):CR375-378 (2008年7月)	Comparison of N-epsilon-(Carboxymethyl)Lysine levels and percentage of eosinophils in induced sputum for assessment of small airway involvements in asthma.	平田一人	呼吸器内科
New England journal of medicine 359(15):1543-1554 (2008年10月)	A 4-year trial of tiotropium in chronic obstructive pulmonary disease.	平田一人	呼吸器内科
Internal medicine 47(23):2053-2056 (2008年12月)	Monitoring of chemotherapy response in malignant pleural mesothelioma using fluorodeoxyglucose positron emission tomography.	平田一人	呼吸器内科
Respiratory medicine 103(1):35-40 (2009年1月)	A technological advance comparing epithelial lining fluid from different regions of the lung in smokers.	平田一人	呼吸器内科
Microbial pathogenesis 46(1):6-12 (2009年1月)	Virulence of Mycobacterium avium complex strains isolated from immunocompetent patients.	平田一人	呼吸器内科
Journal of thoracic oncology 4(3):371-375 (2009年3月)	Phase II study of docetaxel and carboplatin in elderly patients with advanced non-small cell lung cancer.	平田一人	呼吸器内科
Allergology international 57(4):377-381 (2008年12月)	Amb a 1-immunostimulatory oligodeoxynucleotide conjugate immunotherapy increases CD4+CD25+ T cells in the nasal mucosa of subjects with allergic rhinitis.	浅井一久	呼吸器内科
Nephrol Ther 4:223-7, (2008年4月)	Reverse epidemiology in hemodialysis patients. Lessons from Japanese registries.	庄司哲雄	生活習慣病・糖尿病センター
Metabolism 57:1452-7, (2008年10月)	Skin autofluorescence, a marker for advanced glycation end product accumulation, is associated with arterial stiffness in patients with end-stage renal disease.	小山英則	生活習慣病・糖尿病センター
Life Sci 83:516-9, (2008年9月)	Association of glycated albumin, but not glycated hemoglobin, with peripheral vascular calcification in hemodialysis patients with type 2 diabetes.	稲葉雅章	生活習慣病・糖尿病センター
J Bone Miner Metab 2008; 26(3): 265-270 (2008年5月)	Reference intervals of serum tartrate-resistant acid phosphatase type 5b activity measured with a novel assay in Japanese subjects.	西沢良記	生活習慣病・糖尿病センター
Diabetes Obes Metab 10:400-7, 2008 (2008年5月)	Non-oxidative glucose disposal is reduced in type 2 diabetes, but can be restored by aerobic exercise.	絵本正憲	生活習慣病・糖尿病センター
Metabolism 58:143-8, (2009年2月)	Glimepiride increases high-density lipoprotein cholesterol via increasing adiponectin levels in type 2 diabetes mellitus.	絵本正憲	生活習慣病・糖尿病センター

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Metabolism 57:1248-52, (2008年9月)	Effects of pioglitazone on serum fetuin-A levels in patients with type 2 diabetes mellitus.	森克人	生活習慣病・糖尿病センター
Clin Endocrinol (Oxf) 69:556-61, 2008 (2008年10月)	Significant correlation of glycated albumin, but not glycated haemoglobin, with arterial stiffening in haemodialysis patients with type 2 diabetes. Clin Endocrinol (Oxf) 69:556-61, 2008	稲葉雅章	生活習慣病・糖尿病センター
Atherosclerosis 202:582-8, 2009 (2009年2月)	Small dense low-density lipoprotein cholesterol concentration and carotid atherosclerosis. Atherosclerosis 202:582-8, 2009	庄司哲雄	生活習慣病・糖尿病センター
Nutrition 25:421-7, (2009年)	Atheroprotective and plaque-stabilizing effects of enzymatically modified isoquercitrin in atherogenic apoE-deficient mice.	小山英則	生活習慣病・糖尿病センター
J Atheroscler Thromb 16:33-9, 2009 (2009年3月)	The combination of IMT and stiffness parameter beta is highly associated with concurrent coronary artery disease in type 2 diabetes.	絵本正憲	生活習慣病・糖尿病センター
Biomed Pharmacother 63:236-40, 2009 (2009年3月)	Glycated albumin as an improved indicator of glycemic control in hemodialysis patients with type 2 diabetes based on fasting plasma glucose and oral glucose tolerance test.	稲葉雅章	骨リウマチ内科
Calcif Tissue Int 84(3):180-185, 2009 (2009年3月)	Association of reduction in bone mineral density with mortality in male hemodialysis patients.	稲葉雅章	骨リウマチ内科
Calcif Tissue Int. Apr 2008;82(4):278-287. (2008年4月)	Serum levels of TRAP5b, a new bone resorption marker unaffected by renal dysfunction, as a useful marker of cortical bone loss in hemodialysis patients	稲葉雅章	骨リウマチ内科
Clin Endocrinol (Oxf). Aug 69(2):189-196, 2008 (2008年8月)	Utility of serum tartrate-resistant acid phosphatase (TRACP5b) as a bone resorption marker in patients with chronic kidney disease: independence from renal dysfunction.	稲葉雅章	骨リウマチ内科
Osteoporos Int 19(5):709-716, 2008 (2008年5月)	Association of increased active PTH(1-84) fraction with decreased GFR and serum Ca in predialysis CRF patients: modulation by serum 25-OH-D.	稲葉雅章	骨リウマチ内科
Diabetes Res Clin Pract 83:320-6, 2009 (2009年3月)	Glycemic control and survival of diabetic hemodialysis patients--importance of lower hemoglobin A1C levels.	石村栄治	腎臓内科
International Journal of Rheumatic Diseases 2008;11(suppl. 1):A200 (2008年9月)	Serum perforin, A novel apoptosis marker, was increased in patients with systemic lupus erythematosus(SLE)	根来伸夫	膠原病内科
The Journal of the American Society of Nephrology 2008;19:415A (2008年11月)	Analysis of Glomerular Gene Expression Profiles in MRL/lpr Lupus-Prone Mice	根来伸夫	膠原病内科
皮膚の科学 7(2) 281 (2008年4月)	抗セントロメア抗体 (ACA)陽性を示した全身性エリテマトーデス (SLE)	根来伸夫	膠原病内科
日本皮膚科学会雑誌 118(4) 831 (2008年3月)	SLE患者にみられた結核性蜂窩織炎および結核膿瘍	根来伸夫	膠原病内科
日本先天代謝異常学会雑誌 24(2) 100 (2008年9月)	透析患者におけるアガルシダーゼ・アルファ (リブレガル) の血清中、およびリンパ球中の酵素活性について	根来伸夫	膠原病内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Life Sci. 82(15-16):862-8. (2008年4月)	Effect of chronic stress on gastric emptying and plasma ghrelin levels in rats.	富永和作	消化器内科
Digestion. (4):208-13. (2008年4月)	Evaluation of small bowel injury in patients with rheumatoid arthritis by capsule endoscopy: effects of anti-rheumatoid arthritis drugs	渡辺俊雄	消化器内科
Gut. 57(5):575-81. (2008年5月)	A novel rat model to determine interaction between reflux oesophagitis and bronchial asthma.	藤原靖弘	消化器内科
Am J Gastroenterol. 103(6):1573-4. (2008年6月)	Combined use of factor XIII and endoscopic balloon dilatation in a patient with Crohn's disease, duodenal stenosis, and associated internal fistulas: the efficacy of coagulation factor XIII for the internal fistulas.	鎌田紀子	消化器内科
JGastroenterol. ;43(6):434-40. (2008年6月)	A prospective, single-blind trial comparing wireless capsule endoscopy and double-balloon enteroscopy in patients with obscure gastrointestinal bleeding.	亀田夏彦	消化器内科
Hepatogastroenterology. 55(85):1246-8. (2008年7月-8月)	Signet-ring cell carcinoma of the jejunum diagnosed by double balloon enteroscopy.	山上博一	消化器内科
InflammBowel Dis. 14(8):1084-90. (2008年8月)	Proliferation of immature plasma cells in pouchitis mucosa in patients with ulcerative colitis.	押谷伸英	消化器内科
Inflamm Bowel Dis. 2008 Sep;14(9):1205-13. (2008年9月)	Phenotypical and functional study of ghrelin and its receptor in the pathogenesis of Crohn's disease.	押谷伸英	消化器内科
J Gastroenterol. 43(9):699-70420. (2008年9月)	Perfectionism underlying psychological background correlated with the symptoms of functional dyspepsia.	富永和作	消化器内科
J Clin Gastroenterol. 42(9):1010-6. (2008年10月)	High prevalence of irritable bowel syndrome in medical outpatients in Japan.	荒川哲男	消化器内科
Clin Gastroenterol Hepatol. 6(11):1202-5. (2008年11月)	Usefulness of double-balloon endoscopy in the diagnosis of malignant small-bowel tumors.	山上博一	消化器内科
Clin Gastroenterol Hepatol. 6(11):1279-82. (2008年11月)	Small bowel injury by low-dose enteric-coated aspirin and treatment with misoprostol: a pilot study.	渡辺俊雄	消化器内科
Life Sci. 5:83(23-24):771-9. (2008年12月)	Exogenous administration of mesenchymal stem cells ameliorates dextran sulfate sodium-induced colitis via anti-inflammatory action in damaged tissue in rats	富永和作	消化器内科
Comput Biol Med. 39(1):16-26. (2009年1月)	Detection of contractions in adaptive transit time of the small bowel from wireless capsule endoscopy videos.	荒川哲男	消化器内科
J Gastroenterol. 44 Suppl 19:8-17. (2009年1月)	Long-term use of nonsteroidal anti-inflammatory drugs normalizes the kinetics of gastric epithelial cells in patients with Helicobacter pylori infection via attenuation of gastric mucosal inflammation.	谷川徹也	消化器内科
Ann Hematol. In press (2008年12月)	Long-term efficacy of Helicobacter pylori eradication in patients with idiopathic thrombocytopenic purpura: 7-year follow-up prospective study.	富永和作	消化器内科
Am J Gastroenterol. in press (2009年2月)	Predictive Factors of Worsening of Esophageal Varices After Balloon-Occluded Retrograde Transvenous Obliteration in Patients With Gastric Varices.	藤原靖弘	消化器内科
Ulcer Research 35: 13-16 (2008年9月)	慢性疲労ストレスによる胃排出能の変化と介在因子の検討	富永和作	消化器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ulcer Research 35: 35-38 2 (2008年9月)	NSAIDs小腸粘膜傷害はグラム陰性菌によるToll-like receptor 4/MyD88経路の活性化により惹起される	渡辺俊雄	消化器内科
消化器心身医学 15: 38-41 (2008年8月)	クエン酸タンドスピロンによる機能性ディスペプシア患者の有意な症状改善効果 プラセボ対照多施設共同二重盲検比較試験	富永和作	消化器内科
消化器科47: 152-155 (2008年8月)	クエン酸タンドスピロン(セディール)による機能性ディスペプシア患者の有意な症状改善効果 プラセボ対照多施設共同二重盲検比較試験	富永和作	消化器内科
消化器科47: 683-694 (2008年8月)	GERDおよびNERDに対する考え方と治療の現況-4年前のアンケート調査と比較して	荒川哲男	消化器内科
Therapeutic Research29(6):942-947 (2008年10月)	ラットモデルを用いたGERDと喘息の相互関連についての研究	藤原靖弘	消化器内科
Therapeutic Research 29巻4号 506-509 (2008年10月)	持続疲労状態下での胃排出能の変化と神経伝達物質であるNOの関連性の検討 Symposium: 第10回GAS研究会	富永和作	消化器内科
消化管運動 35 10巻 1号 21-23 (2008年9月)	持続ストレス負荷状態における胃排出の変化とNOの関連性の検討	富永和作	消化器内科
胃と腸 43(4): 611-616 (2008年4月)	小腸炎症性疾患 NSAIDs起因性腸炎	押谷伸英	消化器内科
治療 90(6): 1931-1935 (2008年6月)	【胃食道逆流症(GERD)の診かた】 自覚症状をどう捉えるか 呼吸器症状	富永和作	消化器内科
IBD Research 2(2): 127-130 (2008年6月)	わが国におけるサーベイランスの現状(海外との比較)	渡辺憲治	消化器内科
消化器の臨床 11(4): 371-375 (2008年8月)	FDのさらなる病態解明を目指して ストレス・自律神経機能異常からみたFDの病態	富永和作	消化器内科
消化器内視鏡 20(8): 1182-1186 (2008年8月)	炎症性疾患における鑑別診断の基本 カプセル内視鏡からみた腸炎診断	渡辺憲治	消化器内科
IBD Research 2(3): 208-213 (2008年7月)	クローン病の手術適応 内科から	押谷伸英	消化器内科
胃と腸 43(9): 1320-1324 (2008年8月)	colitic cancer/dysplasiaの画像診断 特殊光内視鏡を中心に	渡辺憲治	消化器内科
消化器内視鏡 20(10): 1525-1530 (2008年10月)	小腸出血に対する内視鏡的アプローチ カプセル内視鏡による診断	渡辺憲治	消化器内科
成人病と生活習慣病 39(1): 23-27 (2009年1月)	【特集 いま話題の機能性消化管障害】消化管運動作動薬とその薬理作用	渡辺俊雄	消化器内科
医学と薬学 59(4): 485-492 (2008年4月)	【特集 消化器疾患の治療】上部消化管出血	町田浩久	消化器内科
診断と治療社 p.272-280 (2008年6月)	プライマリケアの時代の症候の診かた 36) 悪心・嘔吐	富永和作	消化器内科
消化器疾患最新の治療 2009-2010、149、南江堂 (2009年2月)	消化性潰瘍 維持療法	荒川哲男	消化器内科
日本消化器病学会雑誌 105(11):1612-1618 (2008年11月)	ダブルバルーン内視鏡検査により診断が可能であった原発性腸リンパ管拡張症の1例	渡辺憲治	消化器内科

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Journal of Microwave Surgery(0917-7728)26巻 Page85-88 (2008 8月)	原発性肝癌 エンドファイア型超音波腹腔鏡を用いた、肝細胞癌に対する腹腔鏡的熱凝固療法について	小林佐和子	肝胆膵内科
Journal of Microwave Surgery(0917-7728)26巻 Page63-65(2008 8月)	原発性肝癌 横隔膜直下の肝癌に対するラジオ波焼灼療法の工夫	坂口浩樹	肝胆膵内科
Am J Gastroenterol. 2009 Jan;104(1):254-5 (2009年1月)	Sildenafil-induced severe cholestatic hepatotoxicity.	田守昭博	輸血部
Int J Clin Oncol. 2008 Dec;13(6):562-6 (2008年12月)	Hepatocellular carcinoma (HCC) recurring 10 years after clearance of hepatitis B surface antigen and 20 years after resection of hepatitis B virus-related HCC.	田守昭博	輸血部
Ann Intern Med. 2008 Dec 16;149(12):912-3 (2008年12月)	Entecavir to treat hepatitis B-associated cryoglobulinemic vasculitis.	田守昭博	輸血部
日本消化器病学会雑誌. 2008 Aug;105(8):1234-9. (2008年8月)	防風通聖散による薬物性肝障害の1例	田守昭博	輸血部
Liver Int. 2008 Nov;28(9):1314-5. (2008年11月)	Platelet-associated IgG for the diagnosis of immune thrombocytopaenic purpura during peginterferon alpha and ribavirin treatment for chronic hepatitis C.	田守昭博	輸血部
Hepatogastroenterology. 2008 Mar-Apr;55(82-83):582-6. (2008年4-5月)	Clinical role of FDG-PET for HCC: relationship of glucose metabolic indicator to Japan Integrated Staging (JIS) score.	田守昭博	輸血部
Hepatol Res. 2008 Sep;38(9):860-8 (2008年9月)	Does a late evening meal reduce the risk of hepatocellular carcinoma among patients with chronic hepatitis C?	田守昭博	輸血部
Hepatol Res. 2008 Sep;38(9):954-9. (2008年9月)	Optimal duration of additional therapy after biochemical and virological responses to lamivudine in patients with HBeAg-negative chronic hepatitis B: a randomized trial.	田守昭博	輸血部
Liver Int. 2009 Jan;29(1):126-32. (2009年1月)	Differences in molecular alterations of hepatocellular carcinoma between patients with a sustained virological response and those with hepatitis C virus infection.	田守昭博	輸血部
Bone Marrow Transplant 2008;42(1):43-49 (2008年7月)	Prognostic value of serum surfactant protein D level prior to transplant for the development of bronchiolitis obliterans syndrome and idiopathic pneumonia syndrome following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	日野雅之	血液内科
Int J Haematol 2008;88:348-350 (2008年10月)	Chronic myeloid leukemia in two patients with gastrointestinal stromal tumor	日野雅之	血液内科
Int J Haematol 2008;88:409-417 (2008年11月)	Current and future perspectives on the TARGET system: the registration system for Glivec((R)) established by the JSH	日野雅之	血液内科
Histopathol 2008;52(6):731-737 (2008年5月)	Diffuse large B-cell lymphoma showing an interfollicular pattern of proliferation: a study of the Osaka Lymphoma Study Group	日野雅之	血液内科
Liver Int 2008;28(9):1314-1315 (2008年11月)	Platelet-associated IgG for the diagnosis of immune thrombocytopenic purpura during peginterferon α and ribavirin treatment for chronic hepatitis C	山根孝久	血液内科
Ann Hematol Epub (2008年12月)	Long-term efficacy of Helicobacter pylori eradication in patients with idiopathic thrombocytopenic purpura: 7-year follow-up prospective study	山根孝久	血液内科

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Ann Hematol (Epub 2009年1月)	Cardiac and autonomic nerve function after reduced-intensity stem cell transplantation for hematologic malignancy in patients with pre-transplant cardiac dysfunction	日野雅之	血液内科
Osteoporosis Japan 16(3):398-402 (2008年7月)	DXAによる大腿骨の強度評価 -Hip Structure Analysisの原理と応用	三木隆己	老年科神経内科
J Bone Miner Metab 26:265-270, (2008年9月)	Reference intervals of serum tartrate-resistant acid phosphatase type 5b activity measured with a novel assay in Japanese subjects.	三木隆己	老年科神経内科
J Inherit Metab Dis (31) 386-394. (2008年6月)	Reduced carbohydrate intake in citrin-deficient subjects.	岡野善行	小児科
J Paediatr Child Health. (44) 311-312. (2008年5月)	A case of Sandifer's syndrome: significance in the differential diagnosis of growth retardation.	岡野善行	小児科
Metabolism. 2009 (58) 278-282 (2009年3月)	Evaluation of endogenous nitric oxide synthesis in congenital urea cycle enzyme defects.	岡野善行	小児科
Ann Acad Med Singapore 37:77-8, (2008年12月)	Diagnosis of Tetrahydrobiopterin (BH4) Responsive Mild Phenylketonuria in Japan over the Past 10 Years.	新宅治夫	小児科
脳と発達、41 (1) : 5-10, 2 (2009年1月)	バイオプテリンと小児神経疾患	新宅治夫	小児科
日本小児科学会誌、113 (3) : 649-653、 (2009年3月)	テトラヒドロビオプテリン (BH4) 反応性高フェニルアラニン血症に対する天然型BH4製剤塩酸サブロプテリンの適正使用に関する暫定指針	新宅治夫	小児科
J Hum Genet. 54(3):145-51 (2009年2月)	Mucopolipidosis II and III alpha/beta: mutation analysis of 40 Japanese patients showed genotype-phenotype correlation.	田中あけみ	小児科
Brain Dev. (2008年12月)	Intracerebral cell transplantation therapy for murine GM1 gangliosidosis.	田中あけみ	小児科
Pediatr Nephrol. 23(9):1461-71. (2008年9月)	Non-invasive high-risk screening for Fabry disease hemizygotes and heterozygotes.	田中あけみ	小児科
Int J Dermatol. :47(5):529-30. (2008年5月)	Fluorescence in situ hybridization analysis is useful for the diagnosis of the carrier state of X-linked ichthyosis	田中あけみ	小児科
Immunology 23. (2008年12月)	Calpain inhibition induces activation of the distinct signalling pathways and cell migration in human monocytes.	山野恒一	小児科
Neuropathology. 29(1):55-62. (2009年2月)	Expression of estrogen receptor alpha and beta in reactive astrocytes at the male rat hippocampus after status epilepticus.	山野恒一	小児科
Brain Dev. 30(8):504-12. (2008年9月)	Effectiveness of lidocaine infusion for status epilepticus in childhood: a retrospective multi-institutional study in Japan.	服部英司	小児科
Acta Neuropathol. 116(4):453-62. (2008年10月)	Aristaless-related homeobox gene disruption leads to abnormal distribution of GABAergic interneurons in human neocortex: evidence based on a case of X-linked lissencephaly with abnormal genitalia (XLAG).	山野恒一	小児科
Neonatology. 31:96(3):156-161. (2009年3月)	Amniotic Fluid Transforming Growth Factor-beta(1) and the Risk for the Development of Neonatal Bronchopulmonary Dysplasia.	山野恒一	小児科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Stress and Health 24(2):109-114 (2008年04月)	Immobilization stress suppresses cutaneous delayed-type hypersensitivity reaction induced by gastrointestinal sensitization in mice: association with Langerhans cell of the forestomach	石井正光	皮膚科
International Journal of Dermatology 47(5):529-530 (2008年05月)	Fluorescence in situ hybridization analysis is useful for the diagnosis of the carrier state of X-linked ichthyosis	石井正光	皮膚科
Experimental Dermatology 17(6):473-480 (2008年06月)	Laminin-332 and -511 in skin	小林裕美	皮膚科
Clinical and Experimental Dermatology 33(4):501-502 (2008年07月)	A case of mosaic-type bullous congenital ichthyosiform erythroderma successfully treated with topical maxacalcitol, a vitamin D3 analogue	石井正光	皮膚科
Journal of the European Academy of Dermatology and Venereology 22(7):876-878 (2008年07月)	Spotted hyperpigmentation: disfigured melanosomes in melanocytes and keratinocytes	石井正光	皮膚科
Contact Dermatitis 59(3):177-178 (2008年09月)	Severe dermatitis mimicking deep vein thrombosis caused by hexyldecanol	石井正光	皮膚科
British Journal of Dermatology 159(3):744-746 (2008年09月)	Caspase-1 activity of stratum corneum and serum interleukin-18 level are increased in patients with Netherton syndrome	石井正光	皮膚科
Journal of Dermatological Science 52(1):57-60 (2008年10月)	A novel LMX1B nonsense mutation in a family with nail-patella syndrome	石井正光	皮膚科
Current Medicinal Chemistry 15(20):1968-1975 (2008年10月)	Laminin-332-integrin interaction: a target for cancer therapy?	鶴田大輔	皮膚科
Osaka City Medical Journal 54(2):63-74 (2008年12月)	Latent essential fatty acid deficiency in a special diet deteriorates skin barrier	石井正光	皮膚科
American Journal of Dermatopathology 30(6):561-566 (2008年12月)	Histopathologic findings in Unna's nevus suggest it is a tardive congenital nevus	曾和順子	皮膚科
Clinical and Experimental Dermatology 34(1):101 (2009年01月)	Vascular type of Ehlers-Danlos syndrome associated with mild haemophilia A	石井正光	皮膚科
Recent patents on inflammation & allergy drug discovery 3(1):40-48 (2009年01月)	NF-kappaB links keratinocytes and lymphocytes in the pathogenesis of psoriasis	鶴田大輔	皮膚科
肺癌 (2008年10月)	肺腫瘍に対する R F A 治療の臨床試験による評価	松岡利幸	放射線科
Radiat Med. (2008年12月)	Computed tomography-guided re-radiofrequency ablation for unresectable lung tumor with local progression previously treated with the same procedure.	松岡利幸	放射線科
Cardiovasc Intervent Radiol. (2009年01月)	FDG-MicroPET and diffusion-weighted MR image evaluation of early changes after radiofrequency ablation in implanted VX2 tumors in rabbits.	松岡利幸	放射線科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ann Thorac Surg. (2009年03月)	Percutaneous computed tomography-guided radiofrequency ablation of lung tumors complicated with idiopathic interstitial pneumonia.	松岡利幸	放射線科
Neuroradiology (2008年4月)	Diffusion tensor imaging of the cortico-ponto-cerebellar pathway in patients with adult-onset ataxic neurodegenerative disease.	井上佑一	放射線科
Radiat Med. (2008年5月)	Hyperacute stroke patients and catheter thrombolysis therapy: correlation between computed tomography perfusion maps and final infarction.	井上佑一	放射線科
Seizure (2008年6月)	Prediction of seizure outcome following epilepsy surgery: Asymmetry of thalamic glucose metabolism and cerebral neural activity in temporal lobe epilepsy.	井上佑一	放射線科
第289回日本医学放射線学会関西地方会 (2008年6月)	限局型小細胞肺癌に対する化学放射線療法	細野雅子	放射線治療科
IVR: Interventional Radiology (2008年4月)	塞栓物質の選び方と使用方法 ゼラチンスポンジおよびジェルパート	堺幸正	放射線科
IVR: Interventional Radiology (2008年4月)	腸骨動脈慢性閉塞に対するスネアーを用いたsubintimal angioplasty	堺幸正	放射線科
IVR: Interventional Radiology (2008年4月)	腹部大動脈瘤置換術後、吻合部仮性瘤に対しbypass術併用ステントグラフト留置が奏功した1例	堺幸正	放射線科
IVR: Interventional Radiology (2008年4月)	脾動脈瘤に対するDetachable balloonによる治療経験	堺幸正	放射線科
脈管学 (2008年9月)	MDCTによるsubstraction CTAからの血管径計測 IVUSとの比較検討	堺幸正	放射線科
第36回日本磁気共鳴医学会大会 (2008年9月)	生体豚における下大静脈に形成した血栓の拡散強調像を中心としたMRI並びに組織での評価	堺幸正	放射線科
第26回MSG研究会 (2008年5月)	総腸骨動脈高度拡張を有する腹部大動脈瘤に対し、I型ステントグラフトとオクルーダーを使用し長期で瘤径縮小が得られた一例	堺幸正	放射線科
日本門脈圧亢進症学会雑誌 (2008年10月)	異所性静脈瘤の診断と治療 異所性静脈瘤に対する径カテーテル的治療の検討	西田典史	放射線科
肝臓 (2008年9月)	門脈圧亢進症治療 修学と集学 胃静脈瘤に対する径カテーテル的塞栓術 (治療戦略と効果)	西田典史	放射線科
日本門脈圧亢進症学会雑誌 (2008年10月)	門脈圧亢進症における画像診断の進歩 胃静脈瘤に対する径カテーテル治療におけるMDCTの有用性	西田典史	放射線科
レジデントノート (2008年8月)	【腹部CTが読める！腸管と臓器を追って、異常を見逃さないポイント】 マルチスライスCTによる腹部正常解剖	西田典史	放射線科
IVR: Interventional Radiology (2008年4月)	回盲部静脈瘤に対して経皮経肝的静脈瘤硬化術 (PTS) が奏功した1例	西田典史	放射線科
日本門脈圧亢進症学会雑誌 (2008年10月)	胃腎短絡路と心嚢周囲静脈からのDual B-RTOが有効であった一例	西田典史	放射線科
日本IVR学会第24回関西地方会 (2008年7月)	胃静脈瘤に対するDual B-RTO	西田典史	放射線科

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
第289回日本医学放射線学会関西地方会 (2008年6月)	破裂で発症した膵腺房細胞癌の一例	西田典史	放射線科
IVR: Interventional Radiology (2008年10月)	門脈圧亢進症に対するIVR 経経頸静脈的肝内門脈静脈短絡術(Transjugular Intrahepatic Portosystemic Shunt: TIPS)	羽室雅夫	放射線科
IVR: Interventional Radiology (2008年4月)	肝RFA焼灼直後のdynamic CTによる治療効果判定	羽室雅夫	放射線科
IVR: Interventional Radiology (2008年4月)	肝細胞癌腹壁病変に対し経カテーテル的塞栓術を施行した2症例	羽室雅夫	放射線科
日本IVR学会第24回関西地方会 (2008年7月)	肺細胞癌に対するインターベンション後のソナゾイド造影超音波像	羽室雅夫	放射線科
日本放射線技術学会近畿部会雑誌 (2008年6月)	「IVRの臨床と最近の動向」解剖と他のモダリティとの関わり 腹部の血管造影・IVR Up to Date	中村健治	放射線科
IVR: Interventional Radiology (2008年10月)	門脈圧亢進症に対するIVR 総論	中村健治	放射線科
IVR: Interventional Radiology (2008年4月)	【救急のIVR】 消化管出血(腫瘍・潰瘍・門脈系)	中村健治	放射線科
第22回腹部放射線研究会 (2008年6月)	腹部IVRでおさえおくべき画像診断-ヒアリハットを含めて-	中村健治	放射線科
核医学 (2008年9月)	骨盤不全骨折のFDG PETに関する検討	小山孝一	放射線科
Hepato-Gastroenterol 55(2)582-586 (2008年3月)	Clinical role of FDG-PET for HCC: Relationship of glucose metabolic indicator to Japan Integrated Staging (JIS)	川村悦史	核医学
Hepato-Gastroenterol 55(2)744-749 (2008年3月)	Concurrent assessment of reservoir and emptying of the stomach for dyspepsia patients	塩見進	核医学
World J Gastroenterol 14(4)2010-2022 (2008年4月)	Serial changes in expression of functionally clustered genes in progression of liver fibrosis in hepatitis C patients	塩見進	核医学
Ann Nucl Med 22(4)297-300 (2008年4月)	Evaluation of diagnostic abilities of Ga-SPECT for head and neck lesions	河邊讓治	核医学
Ann Nucl Med 22(4)327-330 (2008年4月)	A case of cavernous hemangioma in which malignancy was preoperatively excluded by FDG-PET	東山滋明	核医学
Hepato Res 38(5)860-868 (2008年5月)	Does a late evening meal real reduce the risk of hepatocellular carcinoma among patients with chronic hepatitis C?	塩見進	核医学
Hepato Res 38(5)954-959 (2008年5月)	Optimal duration of additional therapy after biochemical and virological responses to lamivudine in patients with HBeAg-negative chronic hepatitis B: a randomized trial	塩見進	核医学
Jpn Pharmacol Ther 36(7)633-640 (2008年7月)	Efficacy of Polaprezinc in Patients with Hepatitis C Virus-related Liver Cirrhosis	塩見進	核医学
Neurosci Lett 441(8)328-331 (2008年8月)	The relationship between depressive symptoms and prefrontal hypoperfusion demonstrated by eZIS in patients with DAT	塩見進	核医学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Intern Med 47(10)2053-2056 (2008年10月)	Monitoring of chemotherapy response in malignant pleural mesothelioma using fluorodeoxyglucose positron emission tomography	塩見進	核医学
Cancer Res 68(7); 2340-2348, 2008.04 (2008年4月)	FGFR2-amplified gastric cancer cell lines require FGFR2 and Erbb3 signaling for growth and survival	八代正和	腫瘍外科
Clin Cancer Res 14(9); 2850-2860, 2008.05 (2008年5月)	A novel transforming growth factor β receptor kinase inhibitor, A-77, prevents the peritoneal dissemination of scirrhous gastric carcinoma	八代正和	腫瘍外科
Annals of thoracic and cardiovascular surgery 14(2); 112-115, 2008.04 (2008年4月)	Functional large parathyroid carcinoma extending into the superior mediastinum	小野田尚佳	腫瘍外科
胃と腸 43(5); 833-844, 2 (2008年4月)	スキルス(linitis plastica型)胃癌における癌細胞の特性、治療に向けた将来展望	平川弘聖	腫瘍外科
Oncology Reports 19; 1541-1544, (2008年6月)	Mutations of epidermal growth factor receptor in colon cancer indicate susceptibility or resistance to gefitinib	平川弘聖	腫瘍外科
Oncology Reports 20; 25-32, (2008年7月)	Clinical significance of intra-tumoral sinusoidal structures showing lympho-endothelial immunoreactivity in breast cancer	小野田尚佳	腫瘍外科
Anticancer Research 28; 629-638, (2008年4月)	Combination therapy of S-1 with selective cyclooxygenase-2 inhibitor for liver metastasis of colorectal carcinoma	山田靖哉	腫瘍外科
胃と腸 43(5); 833-844, (2008年4月)	スキルス(linitis plastica型)胃癌における癌細胞の特性、治療に向けた将来展望	平川弘聖	腫瘍外科
Surg Laparosc Endosc Percutan Tech 18(3); 310-314, (2008年6月)	Laparoscopic resection of periadrenal paraganglioma. A report of 2 cases	野田英児	腫瘍外科
Oncology 74; 69-75, (2008年6月)	Chemokine receptor CCR7 expression correlates with lymph node metastasis in pancreatic cancer	仲田文造	腫瘍外科
日本臨床 66(5); 475-479. (2008年7月)	TGF β 受容体阻害剤を用いた胃癌分子標的治療	八代正和	腫瘍外科
日本臨床 66(5); 119-126, (2008年7月)	スキルス胃癌の進展機序と線維芽細胞の増殖	八代正和	腫瘍外科
Diseases of the Colon & Rectum : 1387-1394, (2008年07月)	Ulcerative colitis-associated colorectal cancer is frequently associated with the microsatellite instability pathway	八代正和	腫瘍外科
癌の臨床 54(9);723(7)-727(11) (2008年9月)	特集 外科医が主体のスタンダード大腸癌化学療法 外科医が主体の大腸癌化学療法—当科での工夫	野田英児	腫瘍外科
手術 62(11);1571-1574 (2008年10月)	潰瘍性大腸炎に対する用手補助腹腔鏡下手術—開腹手術との比較—	前田清	腫瘍外科
Atlas of Genetics and Cytogenetics in Oncology and Haematology July2008, 10 (2008年7月)	ICAM1 (intercellular adhesion molecule 1 (CD54), human rhinovirus receptor)	八代正和	腫瘍外科
臨床雑誌「外科」 70(11);1186-1190, (2008年11月)	特集：日常しばしば遭遇する非上皮性腫瘍 II 消化器系以外の臓器原発の非上皮性腫瘍—診断と最近の治療戦略 1. 脂肪肉腫	天野良亮	腫瘍外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
消化器外科 31(12);1783-1792, (2008年11月)	30周年記念特集 手術の王道 I—消化管の手術 胃全摘術	六車一哉	腫瘍外科
JLSL 12;420-425, (2008年12月)	Adrenal schwannoma treated with laparoscopic surgery	小野田尚佳	腫瘍外科
Hepato-Gastroenterology 55;1939-1942, (2008年 12月)	Efficacy of S-1 for gastric cancer patients with positive peritoneal lavage cytology	大平雅一	腫瘍外科
癌の臨床 55(1);81(81)-90(90), (2009年1月)	スキルス胃癌への新しいアプローチ スキルス胃癌の病態に基づいた分子標的治療: TGFβレセプター阻害剤による腹膜転移抑制	八代正和	腫瘍外科
手術 63(2);219-221, (2009年2月)	手術手技 腹腔鏡補助下直腸切除術における、開腹用 deviceを用いた視野展開および直腸洗浄の工夫	前田清	腫瘍外科
臨牀消化器内科 24(2);193-200, (2009年3月)	消化器疾患の分子医学—基礎医学から臨床へ 消化器疾患と分子標的薬	八代正和	腫瘍外科
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery15(1), 46-49 (2009年2月)	Aggressive Repeat Surgery for a Recurrent Synovial Sarcoma in the Pleura	西山典利	呼吸器外科
日本外科系連合学会誌 33(6), 872-875 (2008年12月)	石灰化を伴った後縦隔発生Castleman病の1例	西山典利	呼吸器外科
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery14(2), 112-115 (2008年4月)	Functional Large Parathyroid Carcinoma Extending into the Superior Mediastinum	岩田隆	呼吸器外科
Respirology13(4), 619-620 (2008年6月)	Extended resection of primary lung cancer directly invading the liver	岩田隆	呼吸器外科
General Thoracic and Cardiovascular Surgery 56(7), 347-350 (2008年7月)	Acute nonbacterial pleuritis caused by spontaneous rupture of metastatic pulmonary adenocarcinoma	岩田隆	呼吸器外科
Osaka City Medical Journal154(1), 41-46 (2008年6月)	Contralateral Pneumothorax after Lung Cancer Surgery: Report of Two Cases	岩田隆	呼吸器外科
World Journal of Surgery32(10), 2204-2212 (2008年10月)	Pulmonary Resection for Non-Small Cell Lung Cancer in Patients with Hepatocellular Carcinoma	岩田隆	呼吸器外科
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery14(5), 314-318 (2008年10月)	Lung Cancer Surgery in Nonagenarians	岩田隆	呼吸器外科
The Journal of Heart Valve Disease 17:42-47 (2008年1月)	Left ventricular rupture after mitral valve replacement: Risk factor analysis and outcome of resuscitation.	細野光治	心臓血管外科
Asian Cardiovascular Thorac Ann 16:4-6 (2008年1月)	Di(2-ethylhexyl) phthalate exposure during cardiopulmonary bypass.	末廣茂文	心臓血管外科
別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ 6:302-305 (2008年12月)	循環器症候群(第2版) IX. 大動脈疾患 異型大動脈縮窄症	佐々木康之	心臓血管外科
Annals of Thoracic Surgery 87:109-116 (2009年1月)	Outcome after the Modified Bentall Technique with a Long Interposed Graft to the Left Coronary Artery.	末廣茂文	心臓血管外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Osaka City Medical Journal. 54(1), 47-51. (2008年6月)	Focal fatty change in the medial segment of the liver occurring after gastrectomy: report of a case	上西崇弘	肝胆膵外科
Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery. 15(4), 417-422. (2008年8月)	Indications for surgical treatment of intrahepatic cholangiocarcinoma with lymph node metastases.	上西崇弘	肝胆膵外科
Journal of Surgical Oncology. 98(5), 358-362. (2008年)	Response to interferon therapy affects risk factors for postoperative recurrence of hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma.	上西崇弘	肝胆膵外科
World Journal of Surgery. 32(10), 2204-2212. (2008年10月)	Pulmonary resection for non-small cell lung cancer in patients with hepatocellular carcinoma.	岩田隆	肝胆膵外科
臨床 消化器内科 23(7), 300-308 (2008年5月)	【食道疾患の臨床 update】 食道の手術 鏡視下手術	岸田哲	肝胆膵外科
癌と化学療法 35(9), 1500-1504 (2008年9月)	胸腔鏡下食道癌根治術の進歩	大杉治司	肝胆膵外科
総合臨床 57(11), 2767-2776 (2008年11月)	食道癌	大杉治司	肝胆膵外科
Neurologia Medico-Chirurgica (2008年6月)	Importance of fixation angle in posterior instrumented occipitocervical fusion.	高見俊宏	脳神経外科
Neurologia Medico-Chirurgica (2009年3月)	Primary intramedullary spinal cord germinoma: diagnostic challenge and treatment strategy. Two case reports.	高見俊宏	脳神経外科
Seizure (2009年1月)	Prediction of seizure outcome following epilepsy surgery: Asymmetry of thalamic glucose metabolism and cerebral neural activity in temporal lobe epilepsy.	露口尚弘	脳神経外科
Clin Neurophysiol (2008年8月)	Quantitative analysis of MEG using modified sLORETA for clinical application.	露口尚弘	脳神経外科
J Nucl Med (2008年5月)	Diagnostic accuracy of 11C-methionine PET for differentiation of recurrent brain tumors from radiation necrosis after radiotherapy	露口尚弘	脳神経外科
J Clin Rehab (2008年5月)	ヒッププロテクターを有効に使用するために	小池達也	リハビリテーション部
Mod Rheumatol (2008年6月)	Use of etanercept in a patient with rheumatoid arthritis on hemodialysis	小池達也	リハビリテーション部
整形外科 (2008年6月)	代謝性骨疾患	小池達也	リハビリテーション部
転倒予防医学百科 (武藤芳照編) (2008年6月)	高齢者の転倒に伴う骨折予防のためのヒッププロテクターの効果と限界	小池達也	リハビリテーション部
整形外科 (2008年7月)	生物学的製剤以外の疾患修飾性抗ウマチ薬の作用機序と使い方、副作用	小池達也	リハビリテーション部
J Bone Miner Metab (2008年9月)	Cyclic AMP enhances Smad-mediated BMP signaling through PKA-CREB pathway	小池達也	リハビリテーション部

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Geriatric Medicine (2008年8月)	高齢者に対する運動・栄養療法の問題点	小池達也	リハビリテーション部
骨粗鬆症治療 (2008年8月)	ヒッププロテクターは効果があるか?	小池達也	リハビリテーション部
Digestion (2008年10月)	Evaluation of small bowel injury in patients with rheumatoid arthritis by capsule endoscopy: effects of anti-rheumatoid arthritis drugs	小池達也	リハビリテーション部
泌尿器外科 21 (8) 1055-1058 (2008年8月)	再燃前立腺癌に対するdiethylstilbestrol diphosphate大量療法の治療成績	玉田聡	泌尿器科
大阪CAPD研究会会誌 21 (1) 8-12 (2008年10月)	CAPDにおける出口部感染、トンネル感染防止に有用な皮膚貫通パッドの開発	長沼俊秀	泌尿器科
泌尿器外科 22 (2) 151-155 (2009年2月)	内分泌療法抵抗性前立腺癌に対するドセタキセル療法の長期成績	川嶋秀紀	泌尿器科
Molecular Medicine Reports 1 (4) 489-492 (2008年7月)	The effect of neutrophil elastase inhibitor on acute tubular necrosis after renal ischemia-reperfusion injury.	松山昌秀	泌尿器科
Molecular Medicine Reports 1 (4) 493-497 (2008年7月)	The role of arachidonic acid in a rat renal ischemia-reperfusion injury model.	松山昌秀	泌尿器科
Molecular Medicine Reports 1 (4) 499-503 (2008年7月)	Relationship between peroxisome proliferator-activated receptor- γ and renal ischemia-reperfusion injury.	松山昌秀	泌尿器科
UROLOGY 72 (2) 238-242 (2008年8月)	Association of prostate cancer and manganese superoxide dismutase AA genotype influenced by presence of occult cancer in control group.	井口太郎	泌尿器科
Anticancer Research 28 (5) 3007-3010 (2008年9月)	Occult prostate cancer effects the results of case-control studies due to verification bias.	井口太郎	泌尿器科
In Vivo 23(1)7-12 (2009年1月)	MnSOD genotype and prostate cancer risk as a function of NAT genotype and smoking status.	井口太郎	泌尿器科
Nutr Res. 29(3): 164-172. (2009年3月)	Education, but not occupation or household income, is positively related to favorable dietary intake patterns in pregnant Japanese women: the Osaka Maternal and Child Health Study.	石河修	産婦人科
J Obstet Gynaecol Res. 35(1): 145-151. (2009年2月)	Transcervical microwave myolysis for uterine myomas assisted by transvaginal ultrasonic guidance.	金岡靖	産婦人科
Int J Oncol. 34(1): 61-67. (2009年1月)	Multiple organ failure of tumor-bearing rabbits in cancer cachexia is caused by apoptosis of normal organ cells.	角俊幸	産婦人科
J Asthma. 45(9): 833-838. (2008年11月)	Maternal smoking and environmental tobacco smoke exposure and the risk of allergic diseases in Japanese infants: the Osaka Maternal and Child Health Study.	石河修	産婦人科
Blood Coagul Fibrinolysis. 19(7): 653-656. (2008年10月)	Protein S deposition at placenta: a possible role of protein S other than anticoagulation.	橋大介	産婦人科

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Fukuoka Igaku Zasshi. 99(4): 80-89. (2008年4月)	Beverage consumption and the prevalence of tooth loss in pregnant Japanese women: the Osaka Maternal and Child Health Study.	石河修	産婦人科
Oncol Rep. 19(5):1293-1298. (2008年5月)	Alterations of the K-ras and p53 genes in Tamoxifen-associated endometrial carcinoma.	石河修	産婦人科
Pediatr Allergy Immunol. 19(6): 490-496. (2008年9月)	Breastfeeding and the risk of wheeze and asthma in Japanese infants: the Osaka Maternal and Child Health Study.	石河修	産婦人科
J Affect Disord. 110(1-2): 174-179. (2008年9月)	Dietary glycemic index and load and the risk of postpartum depression in Japan: the Osaka Maternal and Child Health Study.	石河修	産婦人科
産婦人科の進歩 61巻1号 Page35-37 (2009年2月)	Docetaxel/carboplatin併用療法後の再発症例に対する salvage chemotherapyとしてのpaclitaxel/carboplatin併用療法の効果	吉田裕之	産婦人科
日本女性骨盤底医学会誌 5 巻1号 Page94-99 (2008年12月)	過活動膀胱に対するコハク酸ソリフェナシンの短期治療効果に関する検討 OABSSを用いた多施設成績	角俊幸	産婦人科
日本女性骨盤底医学会誌 5 巻1号 Page87-90 (2008年12月)	子宮摘出後の尿失禁の検討	安井智代	産婦人科
臨床眼科 62(7) 1099-1102 (2008年7月)	加齢黄斑変性における眼底自発蛍光の走査型レーザー検眼鏡と眼底カメラ型の違い	河野剛也	眼科
臨床眼科 62(5) 673-677 (2008年5月)	光線力学療法を施行し長期経過後再発したポリープ状脈絡膜血管症の検討	山本学	眼科
Can J Ophthalmol 43(6): 722-723 (2008年12月)	Improved ocular motility after balanced orbital decompression for dysthyroid orbitopathy	白木邦彦	眼科
Scand J Plast Reconstr Surg Hnd Surg 42(3): 158-160 (2008年3月)	Medial orbitotomy without opening the ethmoid sinus enables wide exposure and safe removal of an orbital tumour located posterosuperomedially	白木邦彦	眼科
Acta Otolaryngol 128: 744-749, (2008年)	Cartilage ossiculoplasty by lever Method	山根英雄	耳鼻咽喉科
Acta Otolaryngol Epub ahead of print, 1-4, (2009年2月)	Assesment of the reuniting duct by three-dimensional CT rendering	山根英雄	耳鼻咽喉科
Equilibrium Res 67(3):70-75, (2008年)	シンポジウム「めまいの発症機序を考える」内耳循環の関与	山根英雄	耳鼻咽喉科
大阪府耳鼻咽喉科 医学会報 68:97-104, (2008年)	特別講演「見過ごされた疾患—先天性外耳道狭窄症—」	山根英雄	耳鼻咽喉科
南大阪病院 医学雑誌 55(2・3):79-85 (2008年)	耳鳴に対するtinnitus retraining therapy (TRT)	坂下哲史	耳鼻咽喉科
Acta Otolaryngol Epub ahead of print, 1-4, (2009年)	Spindle cell carcinoma as a locally recurrent malignancy after surgery for early linguosquamous cell carcinoma	井口広義	耳鼻咽喉科

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Anesthesia and Analgesia 106(5)1450-1455 (2008年5月)	Propranolol increases the threshold for lidocaine-induced convulsions in awake rats: a direct effect on the brain	小田裕	麻酔科
Journal of Anesthesia 22(4)361-366 (2008年11月)	Landiolol has a less potent negative inotropic effect than esmolol in isolated rabbit hearts	西川精宣	麻酔科
Anesthesia and Analgesia 107(6)1946-1952 (2008年11月)	Open abdominal surgery increases intraoperative oxidative stress: can it be prevented?	土屋正彦	麻酔科
British Journal of Anaesthesia 102(3)331-335 (2009年4月)	Advance of age decreases the minimum alveolar concentrations of isoflurane and sevoflurane for maintaining bispectral index below 50	小田裕	麻酔科
日本集団災害医学会誌 (2008年7月)	JR福知山線脱線事故後の関西労災病院における災害対策への取り組み	高松純平	救急生体管理医学

小計5
計269

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 原 充弘
管理担当者氏名	庶務課長 藤井 敏光

		保管場所	分類方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		経営企画課 薬 剤 部	診療録・エックス線写真・看護記録等については、医療情報部で、処方せんについては、薬剤部で保管している。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	庶 務 課		
	高度の医療の提供の実績	医事運営課		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事運営課		
	高度の医療の研修の実績	庶 務 課		
	閲覧実績			
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事運営課		
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事運営課 薬 剤 部		
	確規 保則 の第 状 9 況条 の 2 3 及び 第 1 条の 1 1 各号 に掲 げる 体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	庶 務 課	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	庶 務 課	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	庶 務 課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	庶 務 課		
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	庶 務 課		
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	庶 務 課		
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	庶 務 課		
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	庶 務 課		

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	庶務課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	庶務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	庶務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	庶務課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 原 充弘
閲覧担当者氏名	庶務課長 藤井 敏光
閲覧の求めに応じる場所	病院会議室

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延 0 件	
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	77.0%	算定期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		20,179人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者数		17,198人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		183人
	D：初診の患者の数		31,592人

(注) 1. 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2. A、B、C、Dはそれぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 9 条の 2 3 及び第 1 条の 1 1 各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (3 名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none">・ 所属職員： 専任 (7) 名 兼任 (6) 名 医療に係る安全管理を行う部門として、副院長を室長・統括安全管理者とする安全管理対策室を設け、専任医師 (1 名) 専任安全管理者 2 名 (看護師、薬剤師各 1 名) を中心として、各部署より選出されたリスクマネージャー (7 9 名) とともに、様々な角度から調査・分析・検討を行い、部門横断的な安全管理対策を実施している。 平成 1 8 年 4 月の地方独立法人移行に伴い、安全管理対策室に専任の感染・褥瘡管理者も加え、また安全管理対策室長を補佐するため、室長代理 (2 名) 及び顧問 (4 名) を任命した。また平成 2 0 年 4 月より専任医師 (1 名) も加わり体制強化を図っている。・ 活動の主な内容 ○安全管理対策の方針を定め、各部門への周知徹底を図るため、安全管理対策協議会等の会議を定期的で開催し、医療安全対策の推進を図る。 ○医療安全対策に関する講演会や講習会を開催し、病院全体に共通するテーマの職員研修を定期的に行うことにより、医療スタッフの安全に関する意識の高揚を図る。 ○安全管理対策室に送信されたインシデントレポートについて、定期的にはリスクマネージャー等によるレポート検討会を開催し、事故防止対策の検討を行う。また検討会の分析結果は安対マンスリーに掲載し職員全員に周知する。 ○様々な課題について、安全管理対策室内にテーマに沿った部会やワーキンググループを設置し、専門的な立場から問題解決を図る。	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容 平成 1 6 年 1 2 月に改正した「大阪市立大学医学部附属病院医療安全管理規程」において、医療安全管理に関する体制確保及び推進を図るために必要な事項を定めるとともに、「大阪市立大学医学部附属病院安全管理に関する指針」において、患者の安全を確保し、高度で良質な医療を提供するために、本院における医療安全管理に関して、安全管理上の体制の確保及び推進を図るために準拠すべき基本的事項を以下のとおり定めた。 ○用語の定義・公表基準 ○組織及び体制 ○院内報告制度 ○安全管理に関する教育・研修 ○医療事故発生時の対応 ○医療事故の調査を事故防止対策 ○医療安全相談窓口 さらに、平成 1 8 年 4 月の改定で、独立行政法人化に伴う規程整備に加え、安全管理対策室の拡充、オンラインシステムについて定め、平成 1 9 年 3 月には主に公表基準の改定、平成 2 1 年 5 月の改訂では全体の文言の整合性を図った。	

⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ○院内の安全管理対策の検討及び推進に関すること ○安全管理等の情報に関すること ○医療事故の調査、審議及び改善策の検討に関すること ○その他、安全管理に関すること 	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年28回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ○教職員を対象とした講演会等の実施（6回） ○部署別事例研修の開催（1回） ○新規採用の医師、看護師及び研修医に対し、安全管理のための組織体制や報告制度などの基本的な概念の研修会を開催（13回） ○医療従事者対象の診療用機器取扱いに関する講習会の開催（6回） ○厚生労働省推薦教材DVD研修（1回） ○全従業者を対象としたAED講習会の開催（1回） 	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 （<input checked="" type="radio"/>有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容 <p>病院の各部門は医療情報端末がオンラインで結ばれており、事故発生時には個々の端末からインシデントレポート及びアクシデントレポートを入力し報告を行うこととしている。</p> <p>報告されたレポートについては、定期的にリスクマネージャー等によるレポート検討会を開催し、内容点検、原因分析、改善策の検討を行っており、必要に応じて各部門あて詳細な調査や報告書を求めるとともに、改善の指示や情報提供、リスクマネージャー会議などで事例報告を行っている。</p> <p>また、特定の傾向が見られる事例については、個別の部会やワーキンググループを設けるなどして専門的な立場から事故防止対策の検討を行っている。</p> <p>一方、医療従事者については、安対マンスリーにより本院の状況、医療機能評価機構医療事故情報収集等事業の医療安全情報などを周知し注意喚起している。</p> 	

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無 <input checked="" type="radio"/> 有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> 「大阪市立大学医学部附属病院院内感染防止対策規程」において、感染症の予防及び感染症の患者に対する必要な措置を定めるとともに、「大阪市立大学医学部附属病院院内感染防止対策指針」で感染対策の推進を行うための基本的事項を次のとおり定めている。 ・ 感染症の分類等 ・ 組織及び体制 ・ 感染対策に関する教育・研修 ・ 感染発生の報告 ・ 感染発生時の対応 ・ 感染の調査とその対策 ・ 指針の閲覧 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内の感染に関する予防と処置に関すること ・ 院内感染防止対策のための指針の策定及び改正 ・ 院内感染が発生した場合、原因を分析し、対策を講じ周知徹底を図る。実施後、検証し見直しを行う。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年43回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規採用者に対する研修 ・ 全教職員を対象とした講演会の実施 ・ 感染対策マネージャー（看護師）・外来ボランティア、ナースエイド、清掃・洗濯委託業者を対象とした研修 ・ 感染対策マネージャー研修 ・ DVD研修 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ <input checked="" type="radio"/> 有 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 病棟・外来で感染症を診断した時には必要な感染対策を実施するとともに、一類～五類感染症のすべて及び院内感染を引き起こす可能性のある感染症については報告を行う。届出が必要な感染症の場合は、大阪市保健所（大阪府知事・大阪市長）及び院内感染防止対策委員長あて届出用紙を提出する。専任感染管理者は必要な部門（病院長、院内感染防止対策委員会など）へ報告する。 ・ 院内感染防止対策委員会にICTを置き、ICTでは次の任務を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染情報の解析と管理 ・ 院内感染症のサーベイランス ・ 耐性菌等の「院内感染サーベイランス報告書」集計 ・ アウトブレイク時の調査・分析・対策・報告 ・ 抗菌薬・消毒薬の適正使用に関する指導 ・ 診療現場の現状把握と感染防止に関する指導 ・ 従業者への感染防止対策に関する教育と啓発 ・ 感染対策マニュアル及び感染対策ガイドラインの作成・改訂 ・ 職業感染防止対策の実施 ・ ファシリティーマネジメント（施設管理）への関与 	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年14回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>①新規採用者研修（医師、看護師、医療技術職員など対象：H20年度 11回実施） 医薬品安全使用ならびに安全管理のための基本的な注意点に関する研修会を開催</p> <p>②医薬品安全使用に関するDVD研修（全教職員対象 H20年度 1回実施）</p> <p>③医薬品安全使用に関する講演会（全教職員対象 H20年度 1回実施）</p> <p>④臨床研修医、卒後研修（H20年度 年1回実施）</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （有・無）</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>①内用・外用薬処方の方法、取扱い</p> <p>②注射薬の取扱い</p> <p>③医薬品管理（麻薬・覚せい剤原料、第1種・第2種向精神薬、筋弛緩薬注射剤、特定生物由来製品、特定抗菌薬、定数配置しているハイリスク薬など）</p> <p>④安全性情報（院内副作用報告体制、緊急安全性情報の連絡体制）</p> <p>⑤薬品採用・購入（薬事委員会規程）</p> <p>⑥服薬指導・予薬</p> <p>定期的に病棟、診療科を巡回し、実施状況の確認を行なっている。 （病棟：月1回、診療科：年4回実施）</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>①副作用報告を電子カルテ端末から入力可能とした。</p> <p>②医薬品安全使用に関する情報は文書で通知するとともに電子カルテ端末の掲示板にも掲載して周知の徹底を図った。</p> <p>※安全管理対策室に薬剤部副部長が医薬品安全管理者として配属されており、院内で発生した医薬品使用に係わるインシデント情報などを速やかに入手し、対応している。</p> <p>サクシゾンとサクシンのオーダ入力間違いによる事故報告に対して 処方オーダ時の薬品の誤入力を防止するため、名称が類似する薬品、抗がん剤、毒薬については、オーダ画面において色を変えて表示し、注意喚起を行なっている。</p>	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年1～2回
<p>・ 研修の主な内容： 輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置などについては定期的研修をした。また、次年度導入予定の新規の輸液ポンプ、シリンジポンプについても集合研修（2回）、部署講習会を複数回実施した。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 （ ☑・無 ） ・ 保守点検の主な内容： 人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、その他（シリンジポンプ・輸液ポンプなど）について保守点検計画を策定し、保守点検マニュアルに基づき、日常点検（始業時点検、使用中点検、使用後点検）並びに定期点検を実施し、その結果を点検報告書に記載後、保管している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集、その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ ☑・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 業者より改修情報を入手後、すみやかに院内医療機器安全性情報を発信し、業者と共に院内該当機器の改修作業を実施した。 2. 業者より回収情報を入手後、すみやかに院内医療機器安全性情報を発信し、院内該当機器の回収作業を実施した。 3. 院内にて患者使用中に、人工呼吸器が突然停止した事例について、製造業者に原因究明調査依頼、院内同型機器の使用停止などを周知すると共に代替器を準備し、人工呼吸器取扱者に対し安全使用に関する緊急講習会を開催した。また、医療機器委員会にて不具合を報告し、当該同型機器6台の緊急更新と、その他の院内人工呼吸器の老朽化問題について審議した結果、更新五ヶ年計画を立案し5年以内に老朽化機器を廃棄することを決議した。 4. 院内にて患者使用中に、シリンジポンプが停止する現象が発生した。メーカーに対し原因究明を依頼し、使用部署に対し注意文書を配布した。 5. 院内にて患者使用中に、体外式ペースメーカーが電池交換後も作動しなかった。メーカー調査の結果、当該機器は汎用型9V電池を使用した場合、接続不良を起こす事が判明した。この機種に限り、業者が指定するメーカーの電池を使用する旨の注意文書を配布した。 6. 新規使用予定の輸液ポンプ54台の新品検収（保守点検）を実施した結果、3台動作異常を発見した。すみやかに製造業者に点検依頼し代替器を要請した。 	